

第7回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 日時 平成19年4月27日（金）15:00-17:00
2. 場所 電設健保会館 第2会議室
3. 出席者(敬称略)
深尾(編修長),大石(編修長補佐,長岡技術科学大学),佐藤(D1主査,千葉大学,記録),岩路(D2主査,日立製作所),大山(D2副主査,東京工科大学),山崎(D3副主査,千葉工業大学),久保田(編修広報委員会,明治大学)
4. 提出資料
 - 7-0 議題票(佐藤)
 - 7-1 前回議事録(佐藤)
 - 7-2 委員および幹事の役割分担(深尾)
 - 7-3 D部門論文委員会主査会議議題について(深尾)
 - 7-4 産業応用部門誌論文査読マニュアル(修正案)(深尾)
 - 7-5 電子査読システムの運用状況(大石)
 - 7-6 電子査読システムに関する要望(上田)
 - 7-7 特集号査読状況(森本)
 - 7-8 特集号起案書(竹下)
 - 7-9 引継ぎ事項の確認(深尾)
5. 議事
 - 5.1 前回議事録の確認(資料7-1)
 - ・メール審議済みの前回主査会議事録(平成19年1月9日開催)の内容を確認した。5.9項に関して、「多重投稿を防止する意味を持たせるべきである。」を「多重投稿を防止する意味を持っている。」に修正する。また、議事録に関連して、以下の議論があった。
 - ・除籍者が査読をしている問題については、除籍者に除籍となっている旨を通知して会費を払うように要請し、それが無理の場合は査読委員を辞めてもらうこととした。
 - ・巻頭言の分量は従来どおり1ページのまま変更しない。
 - ・招待論文のカテゴリーは既に規定にあるが、現状では一般論文と同様に査読をして掲載料を徴収することになっている。D部門として、掲載料を無料にするように要請することとした。
 - 5.2 幹事の任期,論文委員の交代など(資料7-3)
 - ・論文委員会幹事団の役割分担について確認した。
 - ・論文委員の追加(綾野氏,茂木氏)について承認した。論文委員として登録するように会誌編修課に依頼する。
 - ・論文委員への連絡に使用するメーリングリストの整備について、具体的な検討を行うこととした。また、論文委員会幹事団のメーリングリストもあわせて整備することとした。電気学会のサーバで、これらのメーリングリストの構築ができないかについて、大石編修長補佐が事務局に確認することとした。
 - ・主査の任期は1年と決まっているが、副主査や幹事については任期が決まっていない。一方、技術委員会委員については任期が決まっており、両者の整合について議論する必要がある。

ある。議論の結果、原則として論文幹事になっている間は、その任期の範囲で技術委員会の委員になってもらうこと、論文幹事の任期が切れた場合は、オブザーバとして技術委員会に参加してもらうことが適当であるとの結論を得た。本件については、研究調査運営委員会で議論していただくこととした。

- ・ D1グループより、論文幹事の小林主一郎氏が退任し、新たに関義朗氏を新任したいとの提案があり、これを了承した。新しい論文幹事を選出する場合は、当該グループの主査が選出し、主査会で承認を取り役員会に諮ることを確認した。

5.3 産業応用部門誌 論文査読マニュアル修正版（資料7-4）

- ・ 深尾編修長より、これまでの議論を反映した論文査読マニュアルの修正版について説明があった。

5.4 電子査読システムの運用状況（資料7-5）

- ・ 大石編修長補佐より、電子査読システムの運用状況について説明があった。
- ・ 査読のルールの徹底について指摘があり、特に、査読の意見が分かれた後の査読を第3者に依頼するルールの徹底を確認した。

5.5 電子査読システムに関する要望（資料7-6）

- ・ D1グループより提出された電子査読システムに関する要望について説明があった。
- ・ 主査として論文委員会のコメントを追加できるようにシステムを改めるなど、要望事項の実現について検討していただくこととした。
- ・ 査読状況一覧を Excel ファイルで取得可能なようにできないかを検討する。
- ・ 特定の人への論文の集中が起きないように過去1年の査読処理数などを表示できるようにすることを検討する。
- ・ 論文ごとの処理状況の表示レイアウトが見難いとの指摘があった。本件に関して、大石編修長補佐より、このようなレイアウトにした理由を作成者に確認することとした。

5.6 主査会の役割分担について（資料7-2）

- ・ 主査会の幹事（各Gの副主査）の役割分担について確認した。
- ・ 幹事3の業務は特集論文担当窓口に限定する。従って、論文委員会メンバーの選出、共通論文誌関係の担当はなくす。
- ・ 幹事2の業務はHPのメンテナンス、ニュースレターに関して編修広報委員会との窓口になる。
- ・ 幹事1は主査会開催業務のみとする。
- ・ 幹事の選出を円滑に行うため、各グループより、前任副主査および後任副主査を選出する。
- ・ D1, 2, 3グループの副主査に、主査会幹事1, 2, 3にそれぞれ割り当てる。

5.7 英文論文誌の査読フローについて

- ・ 英文論文誌の査読は、電子査読システムと別のルートで処理されており、編修長、編修長補佐が情報を把握できていないことが話題となった。本件に関して、大石編修長補佐が事務局に確認し、電子査読システムによる査読フローと英文論文誌の査読フローの関係を整理することとした。

5.8 特集号論文査読状況について

- ・産業応用部門第20回大会記念特集号の森本ゲストエディタより事前送付された関連論文の査読状況について確認した。ゲストエディタの操作画面から確認できない論文があるとの指摘があり、このような状況が生じている理由を確認することとした。

5.9 PCC-Nagoya 特集号起案書（資料7-8）

- ・既に承認されていたPCC-Nagoya 特集号に関して、竹下ゲストエディタより起案書の提出があり、内容を確認した。

5.10 次年度への引継ぎ事項（資料7-9）

- ・次年度の主査会への引継ぎ事項について意見交換を行った。
- ・次期編修長に対する引継ぎ事項4件の紹介があり、追加があればお知らせいただきたいとの要請があった。
- ・幹事1, 2, 3の主査会に関する引継ぎ事項についても、メールでお知らせいただきたい。
- ・編修長, 編修長補佐, 幹事の引継ぎ事項をまとめ、全員で情報共有する。
- ・名簿およびメーリングリストを整備する。

6. 次回開催予定

- 5月下旬に新旧編修長引継ぎで開催する。

以上